社会科学習指導案

指導者　　町　田　浩　平

１　日　時　　令和元年10月８日（火）　５校時

２　学　級　　２年３組　男子14名　女子18名　合計32名　東校舎３階２年３組教室

３　主　題　　単元名　日本の諸地域　３節　近畿地方
中心学習材　「阪神淡路大震災」（東京書籍「地理」）

４　主題について

この教材では1995年におこった阪神淡路大震災を題材に，被害の状況を関連付けながら復興を遂げていく神戸市を中心とした阪神地方の様子を学習していく。教科書ではコラム的な取り上げ方をしているが，2011年の東日本大震災後にどのような復興が必要なのか阪神淡路大震災を教訓に考え共感できる題材である。

生徒は，４月のアンケートの結果，社会が「好き」であると答えた生徒が約７割であった。しかしながら，地理・歴史的分野で分けると地理的分野がやや苦手に思っている生徒の方が多くいた。苦手と回答した理由としては「覚える用語や事象が多すぎる」という意見が多く出た。よってその後できるだけ興味関心をもたせる資料や映像等を設定し，学習課題を解決する学習や，地理では学習シートやグループ活動を通しての問題解決形式の授業を行ってきた。交流の中ではグループや周辺の意見や思考を基にして自分の考えをまとめているが，中には自分の言葉で上手につなげているものもあるが，いまだに記述することが苦手に感じている生徒も多い。それは，学習している内容が現在の自分自身の生活とは大きく異なる事象に思っているためと思われる。

そこで本単元では，教科書の一部分の内容に焦点をあて，資料や写真，映像等を活用しながら，自分の考えをもたせ思考判断しながら考えを深めていく。その後，グループで交流させることを通して深めさせ，学習課題を解決するように展開していきたい。学級全体で交流することを通して，私たちの生活に関連付けながら，その後のそれぞれの豊かな社会生活につなげたい。

５　本時の達成目標

大震災後の阪神地方の取組の状況を『復興』という言葉について，映像や写真を介して，どのような取組を進めたのかを交流することを通して，『復興』に込められたそれぞれの思いを自分なりに結論付け，記述することができる。

６　評価場面での生徒の記述例

【思考・判断・表現】

おおむね満足　B	十分満足　A
復興のために，いろいろな取組が行われたことがわかる。 大震災の状況から復興までの取組が，20年以上経った今でも，引き続き行われていることがわかる。	復興のために，いろいろな取組が行われたことがわかる。東日本大震災とも関連して，日常生活でも復興活動を考えていきたい。復興までの取組に長い年月が経過することが予想されることがわかる。

７　振り返りの場面での生徒の記述例

復興のためには，住宅問題や再開発の街づくり，雇用確保の産業復興，ライフラインの整備など多くの取組が行われたことがわかった。そのためには，長い年月と計画的な努力を継続することが必要であることがわかった。私たちも東日本大震災からの復興に関心をもち，意識して生活したい。

8　本時の展開

段階	学習活動	指導上の留意点 評価の観点・方法　◆教材・教具等
導入 10分	1　阪神淡路大震災の被害の状況把握 2　現在の神戸市の様子から現状を確認する。 3　学習課題を把握する。	1　数字や写真，映像から，災害の状況を確認する。 ◆写真・映像 2　復興の様子を写真等から確認する。 ◆写真
展開 35分	大震災から復興をとげたるために，どのようなことを行ったのだろうか。 【主体的】課題提示後に該当部分を全員で音読し，どの部分が根拠になりうるか想起する。 第１ステップ 4　個人で想起する（個人）。 【対話】それぞれの意見がどのように違うのか，どこからそう判断したのか，同じ根拠でも捉え方が異なる部分はないかという観点で対話を行う。 5　グループの意見を発表する。 住宅問題，再開発の街づくり，雇用確保の産業復興，ライフラインの整備など 【対話】更にグループ内での意見を交流し，自分の考えを深める。 第２ステップ 6　グループの意見と資料の提示により，新たな考えを深める。 ラストステップ 7　本時のまとめをする（個人）（小グループ）。	4　４人グループで意見交流を行い，重要であることを４つ以内にまとめる。　◆ホワイトボード 5　グループ内で司会・書記等の役割を生かして，全員が関わるように進める。　◆資料提示 6　４人グループで話し合わせ，記入させる。 ◆ホワイトボード 7　課題に対するまとめを記入。 7　【思考・判断・表現】 課題に対する自分の考えを，根拠を明確にしながら文章にまとめることができる。〈学習シート〉 A:課題に対する自分の答えを，根拠を明確にしながら自分の言葉で文章にまとめている。 C:課題に対する自分の立場を明らかにさせる。もっともだと思ったり心に残ったりしている他者の考えを参考にさせる。
終末 5分	8　学習活動を振り返る（個人）。	8　【リフレクション】本時の学習で気付いたことや他の人の意見から参考になったこと，その他新たに浮かんだ疑問点や今後生かせそうなことを振り返らせる。　◆学習シート ◆振り返りシート

９　指導と評価の計画

２　年　　社　会	単元名　日本の諸地域　３節　「近畿地方」 （中心学習材名「阪神淡路大震災」）	総時間　５時間扱い

学習指導要領の指導事項	単元の目標
（関心・意欲・態度） 近畿地方の自然環境，人口，産業などの特色について概観する中で，特に伝統的な文化と歴史的背景に関心を持ち，設定した追究テーマを基に地域的特色を意欲的に追究できる。 （思考・判断・表現） 　地域的特色を，歴史的背景を中核とした考察を基に多面的・多角的に考察し，その過程や結果を適切に表現できる。 　さまざまな都市の特色について，その歴史的背景の違いに着目して考察し，表現できる。 （技能） 資料から，近畿地方の地域的特色について有用な情報を適切に選択して，それを基に読み取ったり，図表などにまとめたりすることができる。	近畿地方の地域的特色を，産業や文化の歴史的背景や開発の歴史に着目して，それを他地域との結び付きなどと関連付けて考察させる。 　地域の地理的事象の形成や特色には，歴史的な背景があることを捉えさせる。

時	主な学習活動	おおむね満足（B）
1	自然環境の特色を，三つの地域に分けて理解する。	知　地図などを使って，その特徴的な地形などを捉えている。 技　地域による違いを，中国・四国地方で学習したことを生かして，地図や雨温図を使って捉える。
2（本時）	自然災害と，自然災害への備えについて関心を持つ。	思　阪神淡路大震災からの復興について，グループ活動を通して多くの取り組みが行われたことを捉えている。
3	大都市やそこでの産業について大まかに捉えるとともに，その歴史的背景を理解する。 これまでの学習を踏まえて，追究テーマに対する仮説を立てる。	知　歴史的な先進地域で，それが地域の都市や産業に関連していることを捉えている。 関　歴史的背景について意欲的に追究している。
4	京都・奈良には伝統的な文化や歴史的な町並みが残り，世界から多くの観光客が来ていることを捉える。 　伝統的な文化，歴史的な景観の保存と開発について，調和という視点から多面的に考える。	関　地名には歴史的な由来があることに関心を持っている。 思　大阪市が江戸時代から商業都市として発展し，私鉄によって大阪大都市圏の形成が進んだことを捉えている。
5	大阪市の商業都市としての特色を，その地名に着目して，その歴史的背景を通して捉える。 　大阪市の発展に，私鉄が大きな役割を果たしてきたことを，地図を使って考察する。	技　琵琶湖が近畿地方の水がめとなっており，その環境保全が重要であることを理解している。 関　琵琶湖周辺の都市化・工業化が進み，その環境保全のために人々がさまざまな取り組みをしてきたことに関心を持っている。